

2014 年度テーマ展示 6-8 月



近代日本の女性音楽家
武岡鶴代(1895-1966)
～本学の創立と歩みを支えて～

展示期間：6月23日（月）～8月4日（月）

展示場所：図書館ブラウジングルーム

企画：市川啓子（国立音楽大学附属図書館・総務部）

協力：武岡祥二氏／国立音楽大学学長事務室校史資料室

近代日本の女性音楽家

武岡鶴代 (1895-1966)

～本学の創立と歩みを支えて～

近代日本の洋楽史をひも解くと、多くの女性の音楽家たちの活躍が見られます。
本学の創立メンバーの紅一点、声楽家・武岡鶴代先生もそのひとりです。
今回は、ご遺族の武岡祥二氏と校史資料室とのご協力を得られましたので、図書館資料を
中心に、武岡先生と本学の創立と歩みを振り返る展示を行いたいと思います。



目次

武岡鶴代の生涯と活躍	2
国立音楽大学の創立と歩み	2
武岡鶴代 略年譜	3
展示資料紹介	4
パネル紹介	6
借用資料紹介	7

企画・構成：市川啓子（国立音楽大学附属図書館総務部）

協力：武岡祥二氏／国立音楽大学学長事務室校史資料室

武岡鶴代の生涯と活躍 *****

明治 28(1895)年 9 月 18 日、岡山県津山市にて、米問屋の父・安次郎、母・沢のもと、六人姉妹の六女として生を受ける。岡山県立津山高等女学校卒業後、東京音楽学校に入学し、ハンカ・ペツォールドに師事。大正 6(1917)年、優秀な成績で卒業し、上真行奨励賞受賞。研究科に進み、大正 8(1919)年修了。同年 10 月、東京音楽学校「秋季演奏会」に出演、公式に楽界にデビュー。大正 9(1920)年、日本で最初の四重唱団「沢崎クワルテット」(武岡鶴代、斉藤英子、沢崎定之、矢田部勁吉)の創立に参加、演奏活動を開始。大正 13(1924)年には、西條八十の詩《海にて》への作曲も行い、セノオ楽譜より出版。(残念ながら、自筆譜は消失、出版譜は入手困難)

ワーグナー、ウェーバー等の歌劇の詠唱で活躍する中で、私立の音楽学校を設立しようとの 30 歳の気鋭の音楽家たちの仲間に加わる。仲間とは、音楽マネジャー・中館耕蔵、声楽家・矢田部勁吉、ピアニスト・榊原直。国からの拘束を受けない自由で理想的な音楽学校を創り、日本の音楽文化興隆の一端を担おうとの意気に燃えて、大正 15(1926)年、東京高等音楽学院の創立メンバーとなる。

学院から大学へと続く教育活動では、声楽の授業を担当して、声楽技術の指導に情熱を注ぐ。レッスンの厳しさは、長年語り継がれるが、レッスンを離れると豪放な笑い声と人柄の温かさは、また、有名。『武岡鶴代を偲んで』には、多くの関係者、弟子たちから「先生なくして今の自分はない」という主旨の文が収められている。門下生としては、西内静、友竹正則、田口興輔等々、多数の逸材を輩出。また、国際的視野に基づく武岡の発声法の成果は、今日の国立音楽大学の合唱音楽に連綿と伝えられ、N響の定期公演や年末の《第九交響曲》で歌い継がれている。

意欲的な演奏活動も、「武岡鶴代独唱会」や東京高等音楽学院主催の音楽会出演等続けられ、太平洋戦争激化の中も、モンペ姿で演奏。また、昭和 19(1944)年夏に、猛烈な暑さの中、東京帝国大学出陣学徒の壮行会に出演し、音楽に飢えた学徒たちを慰めた。昭和 29(1954)年には、15 年ぶりに「武岡鶴代独唱会」を開催してカムバックを果たし、楽壇生活 40 年記念パーティーも催されるが、昭和 38(1963)年の宇部市での演奏会が最後となる。

昭和 41(1966)年 9 月、長年の演奏活動と学校教育の功績により、勲四等に叙せられ瑞宝章を授与されるが、同年、9 月 30 日、大勢の弟子に見守られ、惜しまれながら永眠。大学は、日比谷公会堂にて大学葬を行う。また、遺族からの寄付金を基金として、武岡賞を制定し、大学の卒業に際し、声楽と器楽の最優秀者の女子に与えてその名声を伝えている。

*参考文献

- ・『武岡鶴代を偲んで』(武岡祥二, 1990) 請求記号●C48-836、C48-974、C48-975
- ・染谷周子「昭和 19 年夏の第九交響楽 出陣学徒壮行大音楽会」IN『ぼるらんど』278 号(2013 年 4 月), p.9, 請求記号●P1154/278

国立音楽大学の創立と歩み

明治から大正に移り、日本の洋楽文化が進展する中で、大正 15(1926)年 1 月、中館耕蔵、矢田部勁吉、武岡鶴代と神学博士・渡邊敢により、本学の前身である東京高等音楽学院の創立が発表され、建設地は、現在の国立市(当時：北多摩郡谷保村)とされた。財政的な基盤としては、アメリカ大富豪をバックにした新教会のメンバーの一人・ヴンダーリッヒ夫人の善意の寄付金。また、音楽の大理想郷としての「国立大学町音楽村」の構想があったが、世界的な経済不況があり、実現には至らなかった。

創立翌年の昭和 2(1927)年に、ロシアからヴァイオリニストのアレキサンダー・モギレフスキーを教授に迎え、宣伝を兼ねて大演奏会を何度も催す。また、翌々年には、中館の計らいにより、新交響楽団(元・NHK 交響楽団)との共演をはたし、現在に続く年末の「第九」共演の基となった。しかし、経営に関するトラブルから、昭和 5(1930)年内紛が起こる。9 月から新たな出発をするも、学校経営は困難を極めた。戦時中にも学院の存亡の危機を迎えるが、経営者、教員、学生たちが一丸となって乗り越え、戦後、大学に昇格。昭和 26(1951)年、学校法人国立音楽大学が誕生し、現在に至る。

*参考文献

- ・『譜：時の調べにのせて：国立音楽大学の 70 年』〔国立音楽大学〕調査・校史編纂室編(国立音楽大学, 1996) 請求記号●C60-723, 724
- ・『国立音楽大学演奏の 80 年史：東京高等音楽学院・国立音楽学校時代：1926 年-1950 年 3 月』演奏の 80 年史編集グループ編(国立音楽大学, 2007) 請求記号●J111-790, 791, J111-137

武岡鶴代 略年譜

年	活 動
1895 (明治 28)	9月18日、岡山県津山市に生まれる
1913 (大正 2) [17歳]	4月、東京音楽学校予科入学
1914 (大正 3)	4月、東京音楽学校本科声楽科入学、ハンカ・ペツォールドに師事
1917 (大正 6)	3月、本科声楽科を卒業。上真行奨励賞を受ける。4月、研究科入学。5月、御前演奏会
1919 (大正 8)	10月、東京音楽学校「秋季演奏会」に出演
1920 (大正 9) [25歳]	11月、南葵楽堂においてバッハ=グノーの《アヴェ・マリア》を演奏。日本で最初の四重唱団「沢崎クワルテット」の創立に参加。演奏活動を開始
1921 (大正 10)	4月、東京音楽学校教務嘱託(講師)に就任
1924 (大正 13)	4月、「日本交響楽団管弦楽演奏会」(山田耕筰指揮)に出演。ワーグナーの《ローエングリン》詠唱、R.シュトラウスの《薔薇の騎士》の終幕の二重唱を演奏 《海にて》武岡鶴代作曲・西條八十詩 セノオ音楽出版社より出版(セノオ楽譜 No.344)
1926 (大正 15) [30歳]	4月、中館耕蔵、矢田部勁吉、榊原直、渡邊敢とともに、東京高等音楽学院(現・国立音楽大学)を創設。声楽指導と学院運営に積極的に参加
1928 (昭和 3)	10月、東京高等音楽学院主催「御大典奉祝演奏会」に出演。ワーグナーの《タンホイザー》の詠唱を奉唱
1929 (昭和 4) [33歳]	3月、現職のまま文部省在外研究員に任ぜられドイツに留学。テレーゼ・シュナーベル女史に師事
1930 (昭和 5)	10月、日本青年館において「帰朝第1回武岡鶴代独唱会」開催
1931 (昭和 6)	5月、「新交響楽団第89回公演」(近衛秀麿指揮)に出演。ベートーヴェン《第九交響曲》ソプラノ独唱
1935 (昭和 10) [40歳]	「鶴声会」を創立
1936 (昭和 11)	3月2日から14日まで、日本放送協会(JOAK)で「歌のうたい方」の講座を12回にわたって放送。武岡鶴代と柳兼子が半分ずつ担当
1937 (昭和 12)	12月、東京高等音楽学院主催の「ベートーベンの夕」に出演。邦訳(矢田部勁吉訳)による《第九交響曲》日本初演
1938 (昭和 13)	「東京コンサート」を結成。演奏活動を開始。メンバー：武岡鶴代、柳兼子、矢田部勁吉、鈴木鎮一、土川正浩
1943 (昭和 18)	戦局悪化。演奏活動困難な中、大阪の演奏会において「モンペ」姿で出演。
1944 (昭和 19)	8月、「東京帝国大学出陣学徒壮行大音楽会」に《第九》ソロとして出演
1945 (昭和 20)	3月の大空襲で、大久保の家が焼失。平山(多摩)に疎開。8月、終戦
1947 (昭和 22)	7月、「東京高等音楽学院」の校名、「国立音楽学校」への変更が認可される
1950 (昭和 25)	4月、大学令により「国立音楽大学」に昇格。理事に就任
1951 (昭和 26) [55歳]	2月、学校法人国立音楽大学となり、理事に就任
1954 (昭和 29)	10月、「武岡鶴代独唱会」を15年ぶりに開催、カムバックを果たす
1955 (昭和 30)	10月、渡欧。恩師テレーゼ・シュナーベル女史をイタリアに訪問。3週間のレッスンの後、ヨーロッパ各国を訪問
1963 (昭和 38)	12月、宇部市の渡辺翁記念館において「武岡鶴代・属澄江演奏会」を開催。シューベルト、ブラームス、日本の歌曲を演奏。最後の演奏会となる
1966 (昭和 41) [71歳]	9月、勲四等に叙せられ瑞宝章を授与される。 9月30日、永眠。享年72(満71)歳。10月、国立音楽大学は日比谷公会堂において大学葬(葬儀委員長、中館耕蔵)を施行。「武岡賞」制定

[]内：満年齢

参考文献：『武岡鶴代を偲んで』(武岡祥二発行 平成2年)

展示資料紹介

●図書●

『武岡鶴代を偲んで』

国立：武岡祥二，1990

請求記号：C48-836、C48-974、C48-975

*武岡鶴代の遺稿を中心に、40名以上の寄稿文や写真集、略年譜等から成る人物像を偲ぶための私家本。故人の23回忌(1988年)に発案され、1年半後に刊行されたもの。

『声楽と歌劇』(アルス音楽大講座；第8巻(実技篇4))

東京：アルス，1936

請求記号：J110-230

*1936年に作曲篇、知識篇、実技篇等全11巻として出版された音楽大講座の中で声楽と歌劇の実践に関する巻。武岡は、「コンコーネの練習」を担当。木下保、藤原義江等も執筆。

『譜：時の調べにのせて：国立音楽大学の70年』／〔国立音楽大学〕調査・校史編集室編

立川：国立音楽大学，1996

請求記号：C60-723、C60-724

*1996年に本学の創立70周年を記念して編纂された年譜と写真による校史。本学の前身である東京高等音楽学院創立時(1926年)より70年間の出来事が視覚的に理解できる。1936(昭和11)年頃の武岡のレッスン風景も掲載。

『国立音楽大学演奏の80年史：東京高等音楽学院・国立音楽学校時代：1926年-1950年3月』／演奏の80年史編集グループ編

〔立川〕：国立音楽大学，2007

請求記号：J110-790、J110-791、J111-137

*本学の創立時より2006年までの演奏活動にかかわる資料を可能な限り収集し、収録。80周年記念事業の一環として編纂されたもの。冊子には、「国立音楽大学」が認可された1950年までの演奏会プログラム、写真、関連記事等を収録。DVD-ROMは、創立時から2006年までの演奏会資料をデータベース化したもの。

『竹久夢二「セノオ楽譜」表紙画大全集』竹久夢二〔画〕；大平直輝，西東敬三，加倉井幸子編；竹久みなみ監修

東京：国書刊行会，2009

請求記号：J116-514

*竹久夢二が表紙画を描いたセノオ楽譜の表紙画の画集。武岡鶴代作曲・西條八十作詞の《独唱海にて》1924(大正13)年、セノオ楽譜 No.344の表紙絵がp.181に収められている。

●雑誌●

『ぱるらんど』

立川：国立音楽大学附属図書館，1976-

請求記号●P1154 262

*当館で年4回発行している図書館と利用者の皆さんを結ぶコミュニケーション誌。262号(2009年4月)に染谷周子著「ベルリンの思い出 武岡鶴代」掲載。なお、染谷による本学の歴史関連記事は、以下の号に掲載：266(2010年4月)，270(2011年4月)，274(2012年4月)，278(2013年4月)号。

●楽譜●

『新修コールユーブンゲン = Chorübungen 改訂版』／ヴェルネル原著；武岡鶴代，矢田部勁吉共編 ◆請求記号：F4-400

東京：シンキヤウ社，昭和9〔1934〕

*Franz Wüllner原著のChorübungen = コールユーブンゲンを日本人の音楽教師の実用のために矢田部勁吉と共に編集したもの。昭和9(1934)年刊。

『新修コールユーブンゲン = Chorübungen 改訂版, 5 版』 / ヴェルネル原著 ; 武岡鶴代, 矢田部勁吉共編

東京 : シンキヤウ社, 昭和 12 [1937]

請求記号 : F4-402

* Franz Wüllner 原著の Chorübungen = コールユーブンゲンを日本人の音楽教師の実用のために矢田部勁吉と共に編集したもの。昭和 9 (1934) 年刊の第 5 版 (刷)。

『歌のうたひ方』

東京 : 日本放送協會, 昭和 11 [1936]

請求記号 : F18-013

序文 : 歌の御稽古について / 武岡鶴代, 柳兼子

* 昭和 11 (1936) 年 3 月 2 日より 14 日まで日本放送協会でラジオ放送された講座「歌のうたい方」のテキスト。武岡と柳兼子が半分ずつ担当。(武岡は主にコンコーネを担当)

"Die Hochzeit des Figaro : Komische Oper in 4 Akten von Lorenzo da Ponte" / W. A. Mozart

Leipzig : Breitkopf & Härtel, c1899

請求記号 : F22-805

* 武岡が 1929 年にベルリンに留学した際にベルリン BOTE & BOCK にて購入した《フィガロの結婚》のヴォーカル・スコア。〈1929 in Berlin Takeoka〉のサインと「武岡蔵書」の押印、所々に書き込みがある。当館に寄贈され、大切に保管している。

●録音資料●

『武岡鶴代』

[東京] : 東芝音楽工業

請求記号 : LP3571

* 武岡の歌唱がまとめて聴けるLPレコード。収録曲は、《浜辺の唄》《浜千鳥》《マリアの子守唄》《エレジー》《かもめ》《いづくにか》《故郷の廢家》《ああ そはかの人か》《花から花へ》。録音年は不明 (1924 ~ 1926 年?)。ジャケット裏に有馬大五郎の印象的な文章が掲載されている。

『日本洋楽史. 声楽・女声篇』

Vintage/Yamano Music, p1995

請求記号 : XD32915-8、XD41654-7

* 日本の洋楽導入からその変遷をたどる意図で編集されたCD集の「声楽・女性篇」。武岡の演奏は 1 枚目に《かもめ》、《ああ そはかの人か》《花から花へ》の 3 曲、いずれも 1924 年 (29 歳) の録音が収録されている。

『日本 SP 名盤復刻選集. IV』

(ロームミュージックファンデーション SP レコード復刻 CD 集)

京都 : Rohm Music Foundation, 2009

請求記号 : XD63104/-63110

* 日本における西洋音楽の歴史を補完する目的で、財団法人ロームミュージックファンデーションにより企画・発行されたSPレコード復刻CD集。2 枚目に武岡の演奏《ああそはかの人か》《花から花へ》収録。ニッポホン 1924 年録音 (機械式録音)

パネル紹介

写真：東京音楽学校卒業の頃～恩師ペツォールドと共に～

大正 6 (1917) 年 3 月、東京音楽学校卒業

<写真提供：武岡祥二氏>

写真：25 歳の頃、正装して

大正 9 (1920) 年 11 月

<写真提供：武岡祥二氏>

画像：音楽村（東京高等音楽学院）建設地 *左端：中館耕蔵/右端：渡邊敢

大正 15 (1926) 年

<国立音楽大学 校史資料室所蔵>

画像：東京高等音楽学院 完成した校舎

大正 15 (1926) 年

<国立音楽大学 校史資料室所蔵>

写真：ドイツ・ベルリン留学の頃

昭和 4 (1929) 年

<写真提供：武岡祥二氏>

書影：ドイツ留学帰国後の鶴代

昭和 5 (1930) 年

<出典：『武岡鶴代を偲んで』（武岡祥二 1990）>

画像：武岡鶴代声楽レッスン

昭和 11 (1936) 年頃

<国立音楽大学 校史資料室所蔵>

写真：戦局悪化、モンペ姿で歌う *大阪朝日会館にて。伴奏：長峰和子

昭和 18 (1943) 年

<写真提供：武岡祥二氏>

写真：15 年ぶりの「武岡鶴代独唱会」 *日本青年会館ホールにて

昭和 29 (1954) 年 10 月

<写真提供：武岡祥二氏>

画像：楽壇生活 40 年記念パーティー *中央：鶴代/右下（着物姿）：村岡花子

昭和 29 (1954) 年 11 月

<国立音楽大学 校史資料室所蔵>

借用資料紹介

<武岡祥二氏より>

*今回の展示のために、武岡鶴代先生のご遺族・武岡祥二氏より下記の写真9枚と楽譜のコピーを借用させていただきました。感謝して、ここに展示いたします。

① 写真：東京音楽学校卒業～恩師ペツォールドと共に

大正6(1917)年3月、東京音楽学校卒業の時。

② 写真：25歳の頃、正装して

大正9(1920)年11月

③ 写真：ドイツ・ベルリン留学の頃～意気揚々と

昭和4(1929)年

④ 写真：愛宕山放送局にて

昭和5(1930)年

⑤ 写真：意欲に燃えて指導

昭和12～13(1937-38)年頃

⑥ 写真：戦局悪化、モンペ姿で歌う *大阪朝日会館にて。伴奏：長峰和子

昭和18(1943)年

⑦ 写真：戦後荒廃した国立音楽大学にて

昭和22(1947)年

⑧ 写真：15年ぶりの「武岡鶴代独唱会」*日本青年会館ホールにて

昭和29(1954)年

⑨ 写真：恩師ペツォールド女史の墓参り～同門生たちと

昭和40(1965)年、比叡山ハンカ女史供養塔の前で

⑩ 楽譜の表紙 コピー

武岡鶴代作曲 西條八十詩『海にて』(セノオ音楽出版社 1924)

⑪ 自筆譜 コピー

武岡鶴代作曲 西條八十詩『海にて』

借用資料紹介

<国立音楽大学学長事務室校史資料室所蔵>

- ① 1928年10月31日(水) 御大典奉祝演奏会 (ポスター)
日時：昭和三年十月三十一日 午後七時
場所：明治神宮外苑 日本青年館
主催：国立 東京高等音楽學院
- ② 1927年11月19日(土) モギレウスキー教授特別大演奏会 (チラシとプログラム)
日時：昭和二年十一月十九日 午後七時
場所：明治神宮外苑 日本青年館
主催：国立 東京高等音楽學院
- ③ 1944年8月6日(日) 出陣学徒壮行大音楽会 (プログラム コピー)
日時：昭和十九年八月六日 午後一時
場所：二十五番教室 (現在の東京大学本郷キャンパス法文1号館2階25番教室 700人収容)
主催：東京帝國大學 法・文・経學部會

* ポスターおよびパンフレット表紙の武岡鶴代の肖像出典：『武岡鶴代を偲んで』(武岡祥二, 1990)

* 武岡祥二様及び本学校史資料室のご協力に心より御礼申し上げます。

● 展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開していません。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>